

平成27年度入学式 学長式辞

愛媛大学長 大橋 裕一

暖かな春の日ざしが何より嬉しい季節となりました。本日、全国各地から、そして外国から、あわせて1,973名の若々しい皆さまを、愛媛大学の新入生としてお迎えすることができました。愛媛大学を代表し、皆さまのご入学を心より歓迎いたします。

また、ご多用にもかかわらず、この佳き日のためにご臨席を賜りました、愛媛県各界のご来賓の方々、愛媛大学校友会あるいは同窓会代表の皆様、名誉教授の先生方に厚く御礼を申し上げます。そしてまた、ご列席いただいた新入生のご家族、ならびに関係の皆様方、お慶びはひとしおのことと存じます。心よりお祝いを申し上げます。

愛媛大学は、昭和24年に新製の国立大学としてスタートし、今年で66年目を迎えますが、法人化した平成16年以降は、「愛媛大学憲章」に掲げている「学生中心の大学」、「地域にあって輝く大学」の実現を目指して、さまざまな取り組みを行ってまいりました。その結果として、教育、研究、地域連携、国際連携の各分野において着実な成果を上げており、現在、全国的にも注目される地方大学のひとつとなっています。新入生の皆さまには、この愛媛大学に入学できたことを大きな誇りに感じていただきたいと思えます。

さて、これから始まる4年間あるいは6年間の大学生活は、自立した社会人として生き抜く力を養っていく上で、かけがえのない期間です。有意義な生活を送っていただくために、私から「二つ」のアドバイスを送らせていただきたいと思えます。

まず、皆さんにお勧めしたいのは、「たくさんの友だちを作る」ことです。それは皆さんがさらに人間として成長・成熟していくために、できるだけ多くの人と触れ合い、その中で多面的な考え方を養っていくことがとても重要だからです。人にはそれぞれ個性というものがあり、他人を受け入れる一定の許容範囲を持っています。仮に、この許容範囲を「友だちスペクトル」と名付けましょうか。このスペクトルがお互い重なり合えば自然と仲良くなれますが、重ならない場合には喧嘩になることさえあります。いわゆる、「合う」、「合わない」ということです。

でも、それで終わってはいけません。大学生となった今、これまでなら避けていたような人とも積極的に交流し、自分の「スペクトル」を可能な限り広げていくよう努力してみましょう。そうすれば、中には思いもかけない展開もあるはずです。幸い、愛媛大学には、体育系サークル、文化系サークル、あるいは、ボランティア・サークルなど、いろいろなタイプの団体があり、学生向けの優れた能力開発プログラムが多数準備されています。素晴らしい先輩や同輩、そして教職員と出会うため、できるだけ多くの

サークル、プログラムに加入してみましよう。皆さまの「友だちスペクトル」は決して固定されたものではありません。「スペクトル」を意識的に広げる友だち作り、仲間作りの中で、「愛大学生コンピテンシー」にある「多様な人とコミュニケーションする能力」を十分に培ってください。

次にお勧めしたいのは、何事においても「常に疑問を持って行動する」ことです。これからの大学生活、誰でもが難しい問題や課題に直面します。ただ、そんな時、「分からない」と言って諦めてしまうのは、自ら幸運を手放しているに等しいと言えます。そんな時は、「何故だろう?」、「どうしてだろう?」という疑問を持ち、まずは信頼する成書を繙き、これまでの知識、知見を整理、分析してみましよう。そして、多くの人の意見も取り入れつつ、主体的に課題解決プランを練り上げていくことが重要なのです。

もしもそれが、これまで誰も解いていない疑問だった時はビッグチャンスです。少し大袈裟ですが、世紀の発見につながるかも知れません。皆さまには、この「何故だろうサイクル」を是非とも実践し、「愛大学生コンピテンシー」にある「知識や技能を適切に運用する能力」、「論理的に思考し判断する能力」を磨いていただければと思います。

ご存知のように、われわれの大学のモットーは「学生中心の大学」です。仲間とも切磋琢磨し、難局に対応できる強靱な社会適応能力を身につけられることを期待しています。まずは、「素晴らしい友だちをたくさん作ること」、そして「常に疑問を持って行動すること」から始めてみてください。

「Start from making friends and thinking why!」、このシンプルなアドバイスを皆さまにお贈りし、本日の式辞の結びといたします。新入生の皆さまのご健闘を祈ります。